

酵母様真菌により自動血球分析装置（XN3100）で有核赤血球が偽高値となった症例

◎茂出木 菜穂美¹⁾、宮澤 孝仁¹⁾、峯尾 和美¹⁾、田中 雄三¹⁾、大菅 淳¹⁾、篠生 孝幸¹⁾、町田 知久¹⁾
東海大学医学部付属八王子病院¹⁾

【はじめに】自動血球分析装置は迅速かつ大量の検体処理が可能となっているが、様々な要因で測定誤差を生じる。今回、多項目自動血球分析装置 XN3100（シスメックス社）において酵母様真菌の影響により、有核赤血球（以下 NRBC）が偽高値となった可能性のある 2 症例を経験したので報告する。

【症例 1】50 歳代男性、20XX 年 12 月結腸壊死、穿孔、汎発性腹膜炎にて救急搬送され、同月に結腸全摘、回腸ストーマ造設術を施行した。術後に腹腔内出血、肺炎、右被殻出血、真菌感染症となり治療していたが、翌年 4 月に死亡した。2 月中旬に末梢血液塗抹標本に酵母様真菌を認め、血液培養の結果を待たずして抗真菌薬 MCFG の投与を開始した。投薬 12 日後の血液検査にて、NRBC11.9/100WBC、WBC $10.1 \times 10^9/L$ 、好中球数 6616/ μL 、Hb8.1g/dL、PLT $266 \times 10^9/L$ であったが、末梢血液塗抹標本に NRBC は認められず酵母様真菌 (+) であった。血液培養からは *Candida parapsilosis* が検出され、2 週間近く末梢血液塗抹標本中に酵母様真菌を認めており、その間数値の増減はある

が NRBC は偽高値となった。

【症例 2】70 歳代男性、20XX 年 6 月異常行動、意識障害にて救急搬送された。細菌性髄膜炎、左頭頂葉脳梗塞、敗血症にて加療中であったが、同年 9 月に死亡した。8 月の血液検査は、NRBC0.2/100WBC、WBC $22.9 \times 10^9/L$ 、Hb9.2g/dL、PLT $72 \times 10^9/L$ であったが、末梢血液塗抹標本中には、NRBC は認められず、酵母様真菌と貪食像が認められ、血液培養で *Candida parapsilosis* が検出された。

【まとめ】酵母様真菌が NRBC としてカウントされた可能性のある 2 症例を経験した。真菌は一般細菌に比べ発育が遅く血液培養検査での確認に時間を要する。日常検査において、末梢血液塗抹標本で真菌を確認することは稀であるが、酵母様真菌を見つけることが出来れば早期の治療に繋がる。酵母様真菌全てが NRBC としてカウントされているかは不明であるが、XN3100 にて NRBC が検出されている場合、酵母様真菌の出現にも注意する必要性が示唆された。連絡先：042-639-1111（内線 4141）